

一緒にすごした120時間

大阪府創価学園関西創価小学校 五年

林 はやし
昌義 まさよし

突然ぼくとお母さんの中にコロナがやってきた。

ぼくは、いつもと変わらないが、お母さんは、日に日につらそうになっている。

ある日、お母さんは、ぼくのほほに手をあてて、「生まれてきてくれてありがとう」と涙を流した。

ドラマで死んでいく人がささやくシーンが頭にうかんだ。

ぼくは、あふれる涙をがまんしながら、「せんたく物たたまなあかんやん！仕事行ってしっかりかせがなあかんやん」と叫んだんだんだん消えていきそうなお母さんをぼくは、ギョット抱きしめた。

「笑ってくれるだけでいいから、ぼくのそばにいて」と心の底から願った。

ぼくにとつてお母さんは、とても大切な存在だと気づいた。

コロナと戦った120時間、

今は、いつもと変わらないにぎやかなお母さんがいる。

うるさいなーと思いながら、

ぼくも一緒に笑ってる。